

## 「井田の城跡と伝説」 川崎市中原区井田周辺には、古城跡と伝説があります

川崎市中原区井田は、東急東横線元住吉駅のほぼ西側に位置しています。井田地区の西を流れる矢上川を越えると小高い丘陵に形成しており、多摩川方向に中原区域全体を見晴らすことのでき、春には桜の名所になっています。今ではすっかりマンション・住宅が立ち並び、その面影もありませんが、井田の古を語る古城跡と伝説が残っています。写真を交え、散策するように井田周辺をご案内します。



(写真) ① 古城跡からの景観 (井田伊勢台公園から武蔵小杉駅方面の遠望)



(写真) ② 井田の城跡を交通局井田営業所より眺める



(写真) ③ 累跡を古城跡南側より眺める

<解説>井田の累跡（ルイセキ、トリデアト）

○『新編武蔵風土記稿』に「村の南の方にあり、今のその土を見るに平地丘陵を合わせて一町ばかりの所なり、この地を掘るときはままた刀刀等の折れしものを得ると云、相云ふ此壘は井田撰津守某が居住せし所なり、この撰津守は鎮守府將軍源義家に随い、陸奥国九戸合戦の時討死にせしといひ伝う。尤うけがたきことなり。されど今その子孫は多摩郡是政村及び堰宿河原村等にありて農民となれり、中にも是政村の民佐兵衛が先祖は、天正の頃までも井田撰津守是政と名のりて、北条家へつかへしことは巳にかの村の条にも出せり、又この累跡の中にも雀の宮と号せる小祠あり、これは井田氏が往せし時の鎮守なりと云」と記される。



(写真) ④ 義経伝説がある陣屋跡（井田旧1417番地付近）

○源義経が兄頼朝に追われ奥州に落ちて行く途中しばらくこの地に陣を備え、兄の様子を

見て居たとするとされている。



(写真) ⑤白 (しらみ) 塚跡沿いの鎌倉街道を井田病院正門前から見る (左の道)

○隣村の蟹ヶ谷境から入る丘陵の尾根道は鎌倉街道といわれる

○『新編武蔵風土記稿』に「村の南の方にあり、高二間ばかり広十坪ばかり、此辺はこの鎌倉街道にて隣村蟹ヶ谷村の内字曲り松と云所よりここへ達す。その頃のことなるよし頼朝卿の何の合戦にや、しのめの空のしらむ頃をひに此所にかかりけるより、塚の名起れりと云、もとよりうけがひがたき説なれど、聞ままに記しおけり。別に故あるなるべし」と記されている。また、建久元年（西暦1190年）の源頼朝上洛の折の隋兵の中に東国武士の面々と共にこの地の名を姓とした井田太郎、二郎の名が『吾妻鏡』に見えている。





(写真2枚) ⑥⑦ 古城跡北東側崖の中腹にある毘沙門天の碑（土地の水神様）

<解説> 古城跡（跡地は県立中原養護学校周辺）

○『新編武蔵風土記稿』に「村の西南の隅なり、此所をいりの上と云、五町四方ばかりの間にかたち残れり、されど何人の居城なりしことを知らず、此所の土中より壺の形したるものおよび種々の陶器のかけたるものを出すことあり、この所はもしかの北条の家人**中田加賀守某**がをりし所にや、されどその云ふる処もなければさして知がたし」と記される。これが**井田城跡**と推定されているが確証はない。

○この地の北東の丘の中腹に毘沙門天が残っているが、これが井田城の北の守護の為に祀られたと云う風に考える説もある。

- (参考文献) 大日本地誌大系9 『新編武蔵風土記稿』 第三巻 雄山閣 1981年  
日本地名研究所編 『川崎地名辞典(上)』 川崎市 2004年  
日本地名研究所編 『川崎の町名』 川崎市 1991年  
井田の史跡と伝説ー川崎市「老人福祉センター」長寿荘周辺  
長寿荘 1983年  
わたしたちのまち 井田 川崎市立井田小学校 1976年